

1.（NHK 後藤 祐輔 記者）

緊急事態宣言の解除から2ヶ月余り、経済活動は再開したが影響は今も残ったままですが、今をどのように評価していますか？

（日本金融人材育成協会（金融庁参与） 森 俊彦 会長）

人や物の動きが止まったことで経済全体が縮小し、売上がコロナ前より3割少ない状態が続く7割経済の長期化を指摘したい。

今の状況は、一周するときの第1コーナーをやっと回っているくらいで、危機が去ったとは決して言えません。これから第2、第3、第4コーナーと、これからまだ長いわけです。そこにかかなり厳しい状況が待ち受けているとみています。

（取材した先ほどの信用組合では、「今年1月～6月の経営破綻は一件も起きていない」とのことですが…）

年内もつのかと言えば、早いところは、例えば、廃業に踏み切る、また、資金が足りないので破綻するといったところが出てくるとみています。

2.（NHK 後藤 祐輔 記者）

新しい生活様式の下で、事業者に求められるものは何でしょうか？

（日本金融人材育成協会（金融庁参与） 森 俊彦 会長）

それは、経済の縮小や積み重なる負債を乗り越えるため、持っているノウハウを存分に活かして、稼ぐ力を付けるということです。貸し倒れリスクの少ない実質無利子の融資だけでなく、金融機関もリスクをとり独自の融資で、経営者の成長意欲を後押しすることが重要です。

金融機関としては、プロパー（独自）の設備資金を付けていく。事業者も金融機関が伴走しながら設備資金を付けてくれるのであれば、自らの事業変革に取り組もうとしている、その意欲がさらに強くなる。これがポイントになると思います。

今、リスクを取ることは、未来に向けての稼ぐ力を付けるために取っている。という意味では、未来のリスク削減のために取っている。明るい未来を切り開くために取っている。その理解が重要になってくると考えています。

